

## 「注意」

このユーザーマニュアルは元英語マニュアルを基に翻訳されたものです。内容が部分的に異なったり、間違いがある可能性がありますのでご了承ください。もしご質問や不明点ありましたらこちらのメールアドレスにご連絡をお願いいたします

[befaco.jp@befaco.org](mailto:befaco.jp@befaco.org)



# KICKALL

## ユーザーマニュアル

## 電源

BEFACOからモジュールを購入していただきありがとうございます！  
このモジュールを使う前にこのマニュアルをお読みください。

1. 接続するモジュラー収納ケースの電源コードを外してください
2. 電源コードの極性をしっかりご確認ください。ケーブルの色付きの線(ピン番号1)は-12Vレールです。
3. モジュールを逆向きに差し込むと壊れる可能性がありますのでご注意ください。(この場合は保証対象外になります)
4. この製品についてご質問ありましたら、こちらにお問い合わせください

[befacojp@befaco.org](mailto:befacojp@befaco.org)



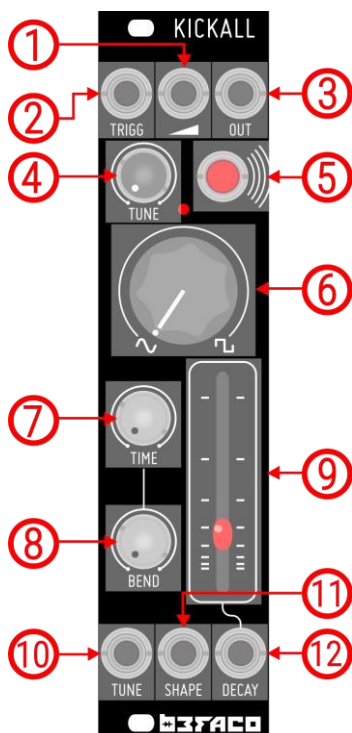
## 製品概要

## KICKALL

Kickallは、パーカッション、ベースラインやキックサウンドの幅広いパレットを生成できるアナログバスドラムモジュールです。このモジュールは、Tune入力を介して正確なV / Oct追跡を実現し、自分のミックスに最適なキック作りができます！

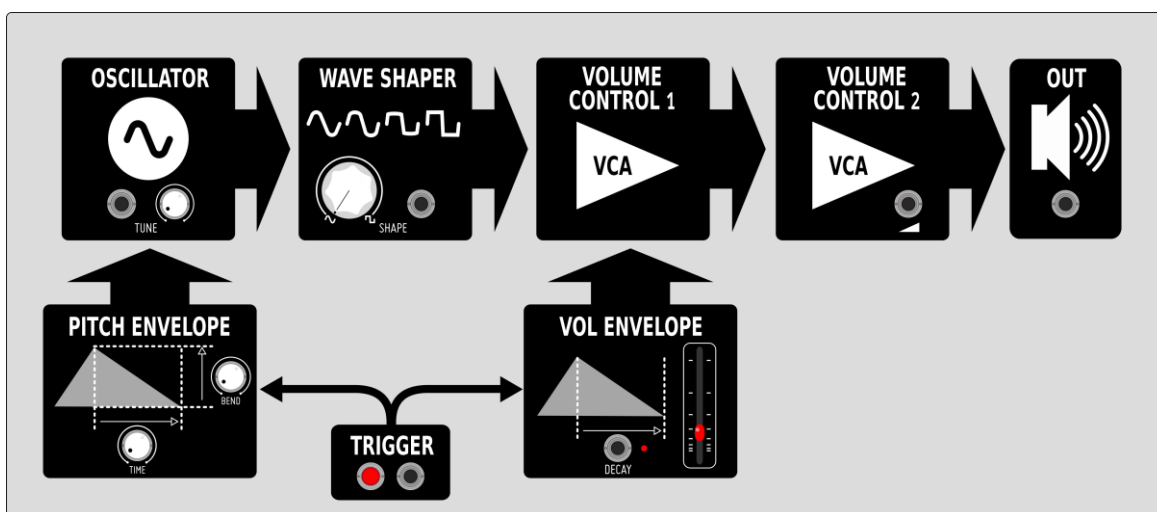
## モジュール参照

## パネル説明



1. ボリューム入力  
内部VCAの電圧制御入力。範囲:  $\pm 1.0V$ 。
2. TRIGG トリガー入力  
この入力、内部VCAエンベロープをトリガーします。入力しきい値:  $3.5V$
3. OUT 出力  
モジュールのメイン出力。
4. TUNE チューニング  
このノブは、最初の2オクターブ付近の音のチューニングを制御します。
5. トリガーボタン  
内部VCAエンベロープの手動トリガー。
6. シェイプ(形状)  
このコントロールは、信号波形をサインからスクエアにモーフィングします

7. TIME タイム(時間)  
ピッチエンベロープのディケイタイムの手動コントロール
8. BEND ベンド  
このノブは、ピッチエンベロープのアッテネーターとして機能します。
9. ディケイ  
VCAエンベロープの減衰時間の手動制御。
10. TUNE チューニング入力  
VCOのチューニングコントロール。最大10オクターブまでV / Oct標準で追跡します。
11. シェイプ(形状)入力  
形状パラメーターの電圧制御入力。範囲:  $\pm 1.0V$ 。
12. 減衰入力  
減衰パラメーターの電圧制御入力。範囲:  $\pm 1.0V$ 。



### 信号経路

Kickallの信号経路は、長年にわたって使用されてきた古典的なバスドラムパッチに基づいています。

このパッチは、サイン波がウェブシェーパー回路を通して2つのVCAに送られます。VCOと1つ目のVCAにエンベロープが付いていて、ピッチと音量をコントロールできます。

両方のエンベロープが専用トリガー入力と手動コントロールできます。

Kickallのチューニングセクションの精度が非常に高く、専用ノブとCV入力が搭載されています。Tuneノブで2オクターブ範囲でチューニングを調整できます。ノブを左に振り切った状態はA0で、右に振り切った状態はB2になります。

Tune入力により、Kickallは正確に8オクターブ追跡できます。この入力は、標準V/Octで動作しますのでお持ちのシーケンサーやCVソースを接続し、2オクターブ以上のパターンが簡単に作成できます。

VCOに付いているピッチエンベロープには2つのパラメーターがコントロールできます：タイムとベンド。タイムはエンベロープの減衰(Decay)をコントロールするので、ピッチの時間的な変化を設定できます。ベンドは、ピッチの変化範囲を設定します。タイムとベンド両方とも手動でしか調整できません。

その2つのパラメーターをいじるだけで、ベース音からパーカッション音まで幅広い音作りが可能。

ボリュームエンベロープは、最初のVC Aだけを制御します。ピッチのエンベロープとは違い、減衰(Decay)を手動でコントロールできませんが、手動だけではなくCV入力でもコントロール可能。

最後にCV入力付きの2つ目のVCAが付いています。この入力に様々な信号を接続することによって、様々な面白い効果が得られますので是非試してみてください。

このCV入力は正規化されているので何も接続されていない状態だと信号の100%の音量が得られます。

## モジュール参照

## キャリブレーション手順

工場設定では1V/octで設定されていますが、好きなようにキャリブレーションできます。完璧なチューニングを得るのに、試行錯誤の繰り返し作業になります。こちらの簡単なステップに従って、KICKALLをチューニングしましょう。

1- ノブを次の位置に回します:

- TUNE: 中央
- BENDとTIME: 左に振り切った位置
- DECAY: 右に振り切った位置
- SHAPE: 右に振り切った位置

2-TRIG入力に早いトリガー信号を接続

3-TUNE入力にちゃんとキャリブレーションされたV/Oct信号(キーボードやシーケンサなど)を接続。OUT出力をチューナーに接続

注: ハードウェアのチューナーをお持ちでなければ、オーディオインタフェースに接続してソフトウェアチューナーを使っても大丈夫です

4-CVソースから0Vを送ります。チューナーでC1になるまで調整します。チューナーの精度によりちゃんと認識されないことがあります。

5- CVソースから4Vを送ります。チューナーでC5が表示されるまでKICKALLの上にあるZZZトリマーを調整。(ねじ回しが必要です)

6-またステップ4のようにCVソースから0Vを送ります。恐らくC1が表示されませんが、先より近いはずです。それぞれにC1とC5になるまでステップ4と5を繰り返してください。

これができたら、それ以外の音程を送信してみて、他のオクターブもきちんと追跡されているかご確認ください。されていなければ、改めてステップ4と5をリピートしてください。

## その他

## スペックとクレジット

\* 幅: 6HP

\* 奥行: 20mm

\* +1.2V: 30mA

\* -1.2V: 30mA

\* デザイン: Jaume Olivé & Befaco